

◆経済倶楽部講演会第4116回（5月22日）

オバマが狙う残り2年のレガシー外交と日本の戦略

東京財団上席研究員
渡部恒雄

- *意外に高い最近のオバマ支持率
- *TPPの議会対応でも強気姿勢に
- *支持率改善の背景にある経済の復活
- *レガシーづくりに入ったオバマ
- *北朝鮮でレガシーを狙ったブッシュ
- *クリントンは北朝鮮と中東和平に照準
- *オバマが狙うレガシーの筆頭はイラン問題
- *激しいイスラエルのロビー活動
- *中東のパワーバランス改善も視野に
- *米国の対中戦略と安保法制の関係



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は渡部恒雄先生に来ていただきました。

この会は2回目でございます、まだご記憶にあるかと思えます。先生は東北大学の歯学部を出られて、その後ちょっと方向転換をされ、アメリカで政治の勉強をされ、研究員生活を送られ、その後、日本にお帰りになりました。現在、東京財団のほうで研究員として仕事をされております。特に日米関係につきましてはたいへんお詳しく、アメリカの政治状況についてもかなり造詣が深いということで、皆さん日頃新聞等ではあまりお聞きにならない話が今日は伺えるのではないかと思います。

それでは渡部先生、よろしくお願いたします。（拍手）

渡部 ただいまご紹介にあずかりました渡部恒雄と申します。よろしくお願いたします。

2回目です、前回は日米中のトライアングルというお話をしましたが、今日はアメリカの外交、オバマ外交の現状についてお話しさせていただきます。日米でいろいろ動きがあります。日米首脳会談もたいへんいい形で終わりましたが、それと連動する形で、今、国会では日本の安全保障法制が議論されています。これは日本だけではなくて、結局、アメリカのアジア回帰政策というか、アジアの安全保障をどう見るかという事ともかかわってくる話でございます。

さらに、実はアメリカ外交というのはいろいろ問題を抱えているわけですけれども、その一つにロシアの話があって、ウクライナ問題ですね。